

HOME > PROJECT > XSCHOOL >
地域の土着性が未来に問いを投げかける【XSCHOOLトレジャーハンティング・後編】

PROJECT XSCHOOL2019

地域の土着性が未来に問いを投げかける【XSCHOOLトレジャーハンティング・後編】

XSCHOOLトレジャーハンティング・前編では、3つのパートナー企業についてご紹介しました。リサーチ中には今期のXSCHOOLのアドバイザーでスペキュラティブ・ファッションデザイナーの川崎和也さんにも登壇いただき、ご自身のユニークな活動や福井のフィールドに秘めた可能性について語っていただきました。



■川崎和也さん

1991年生まれ。スペキュラティブ・ファッションデザイナー／デザインリサーチャー。

Synflux主宰。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科エクステデザインプログラム修士課

PROJECT



XSESSIONS

2021 PROJECT
ARCHIVE

2020 PROJECT
ARCHIVE

2019 PROJECT
ARCHIVE

2018 PROJECT
ARCHIVE

2017 PROJECT
ARCHIVES

2016 PROJECT
ARCHIVES

CONTACT

程修了（デザイン）、現在同後期博士課程。ファッション界のノーベル賞といわれるH&M
ファウンデーション「第4回グローバル・チェンジ・アワード」のアーリーバード特別賞を
受賞。

「スペキュラティブ」とは？

はじめに、馴染みのない「スペキュラティブ」という言葉からご紹介
しましょう。「スペキュラティブ」とは日本語で「思索する」という意
味を持ちます。RCA（ロイヤル・カレッジ・オブ・アート）のアンソ
ニー・ダン教授によって「問いを投げかけるデザイン」の意味を持つ
「スペキュラティブデザイン」という言葉が提唱されました。

スペキュラティブ・ファッションデザイナーである川崎さんの活動は
とてもユニーク。テクノロジーやサイエンスなどあらゆる領域を横断
しながら、世の中へ問いを投げかける取り組みを行っています。



「ファッションというと、マネキンやトルソーに華やかな衣装を着せ
た現場を思い浮かべる方も多いかもしれませんが、私の活動場所は主
に大学の研究室なんです」と語る川崎さん。そのアイデアは、まさに
これまでのファッションの概念を覆すようなものばかりです。

健康食品のあの素材が服に！？

最初に紹介していただいたのは、バイオテクノロジーと素材開発を融合した「バイオリジカル・テイラーメイド」。健康食品としても有名な発酵飲料の「コンブチャ（紅茶きのこ）」からバイオ素材を生み出し、着る人の体型にぴったりフィットした服をつくるプロジェクトです。



▲バイオ素材から誕生したブラウンのジャケット

コンブチャを培養させると、酢酸菌やイースト菌の作用によりセルロースが誕生。さらにそのセルロースを乾燥させることで、レザーのようなテクスチャと可塑性を実現したバイオ素材が生まれました。



▲実験中はなんと自宅にプールを設置してコンブチャを培養させていたそう

「バイオロジカル・テイラーメイド」は、ファッション業界において素材と関わるプロセスを変化させた新しい試みとなり、数々の賞を受賞しました。また、動物や植物、微生物との新たな関係性を築く素材開発の一例としても注目されています。

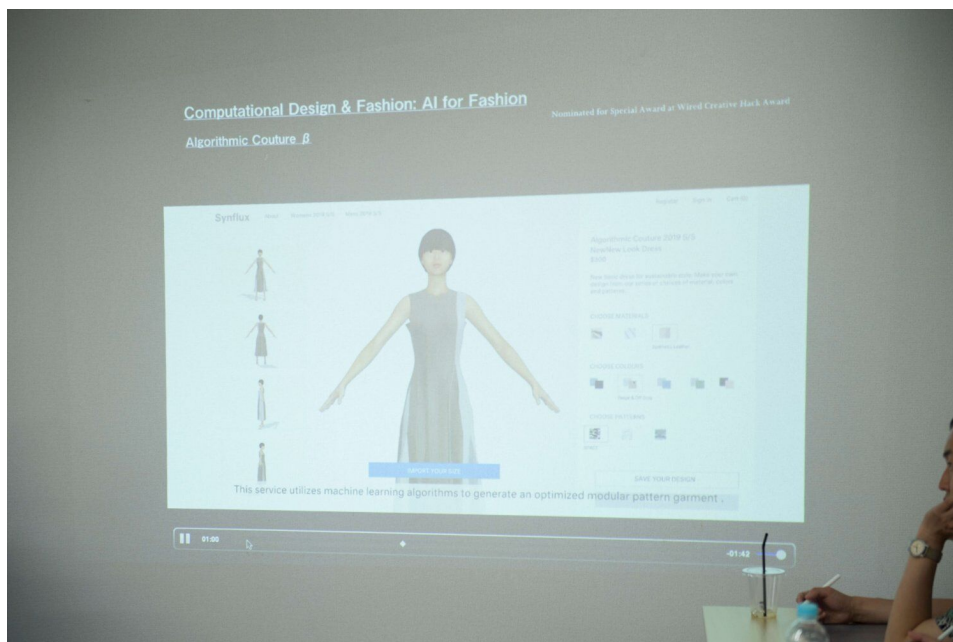
環境に配慮し、残布ゼロを実現したプログラム

次にご紹介いただいたのは、布の廃棄を減らした「アルゴリズムック・クチュール」という取り組み。



▲生地裁断の際、一切の無駄な布が出ない「アルゴリズムック・クチュール」

近年、地球のサステナビリティ（持続可能性）が注目されるなかで、ファッション業界に置ける布の廃棄問題は深刻になっています。特に、二次元で構成される生地を使って曲線が多い婦人服をつくろうとすると、どうしても無駄な部分が出てしまい、使用した布の15～20%は捨てられてしまうそう。そこで、ファッションとAI（機械学習）を融合させ、コンピューターを使ったアルゴリズムにより、着用者の3Dデータに基づいて身体寸法ぴったりの型紙を自動作成。廃棄物の削減を実現しました。



このほかにもファッションとウェアラブルテクノロジーを融合した取り組みとして、高齢者の多様なニーズに適応できる衣服や都市の景観のなかで新たな遊び方を提案する衣服など、未来の暮らしが変わりそうなプロジェクトもご紹介いただきました。



▲高齢者の変化するニーズをサポートする未来の衣服「Computer-obaachan」

問いを投げかけるにはどうすればいいのか

川崎さんの「未来に問いを投げかける」プロジェクトの数々に、みなさん興味津々の様子。



では、福井というフィールドのなかで“問いを投げかける”プロジェクトを生み出すにはどうすれば良いのでしょうか。

川崎さんは、「市場や地域性からもう一步踏み込んだ、この土地でならではの“土着性”を考えることが大事」だと語ります。



土着、すなわち過去から現在に至るまで福井で脈々と息づいていたものとは何なのか？ 今回のXSCHOOLは、「未来の土着」をキーワードに、福井の潜在的なオリジナリティについて考える場にもなりそうです。

新たなヒントをもとに、XSCHOOLは10月末からいよいよ始まります。

参加するみなさんが、今後、福井を舞台にどのような問いを投げかけるのか。どうぞお楽しみに！

text：石原 藍 photo：片岡 杏子

いいね！ 0

<<< PREV NEXT >>>

Related article 関連記事



PROJECT XSCHOOL

ローカルとグローバルがつながる未来に向けて 【XSCHOOL福井プレゼンテーション後編】

「XSCHOOLプレゼンテーション福井」は後半へ。ゲストレビューアの松島倫明さん、山崎亮さんと、プログラムディレクターの原田祐馬さん、坂田守史さんが登壇し、6チームのプ…

MORE >

CONTACT



PROJECT XSCHOOL

福井に根づかせたい未来とは【XSCHOOL福井プレゼンテーション前編】

2016年からスタートしたXSCHOOLは、福井市がこれまで培ってきた歴史や文化、産業などの資源を活かしながら、ともに考え挑戦できる舞台をつくろうと、毎年プログラムを変…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

声なき声を探る120日間を経て【XSCHOOL東京プレゼンテーションレポート】

「未来の土着」をテーマに、約120間のプログラムを走らせてきたXSCHOOL。さまざまな視点から地域を見つめ、問いを投げかけてきた6チームが、ついにプロジェクトを披露す…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

発表目前！ 最後まで走り続ける【ワークショップ最終回・後編】

プロジェクトの発表が目前に迫った最終回となるワークショップ。各チームのメンタリングを進めながら、2日目にはディレクターの多田智美さんによる企画書講座も開かれました。まず…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

発表目前！ 最後まで走り続ける【ワークショップ最終回・前編】

2019年10月から始まった福井でのワークショップも、この第4回目がいよいよ最終回。アドバイザー・ディレクターらとの最終メンタリングを控え、緊張した面持ちのメンバーが多…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

東京2月2日（日）、福井2月8日（土）、プレゼンテーション開催決定！

次代をデザインする人のための小さな教室・XSCHOOLのプレゼンテーションを東京と福井で開催します！ XSCHOOLは、福井の文化風土や産業を探索し、社会の動きを洞察し…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

アイデアを磨きプロジェクトを生み出す 【第3回ワークショップ】

XSCHOOL2019のワークショップも折り返し地点。前回までのワークショップで、メンバーたちはパートナー企業の現場を見学したり、アドバイザーのレクチャーを受けたりと、…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

未来へ介入するデザインのヒント【第2回ワークショップ】

「未来の土着」をテーマにスタートした今期のXSCHOOL。10月の初回ワークショップでは6つのチームが結成され、パートナー企業の技術や社会課題、福井の地域性を読み解きな…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

XSCHOOL 2019がスタート！【第1回ワークショップ】

福井を舞台に新しいプロジェクトをつくり上げるXSCHOOLが、今年も始まりました。今年度はスタジオ形式の「XSTUDIO」からプログラムを再編。地元パートナー企業と、全…

[MORE >](#)



PROJECT XSCHOOL

パートナー企業をたずねて【XSCHOOLトレジャーハンティング・前編】

2016年、福井市で次代のデザイナーを育む小さな教室「XSCHOOL」がスタートし、今年で4期目を迎えました。今年度は3つのパートナー企業から各社数名の社員が参加し、各…

MORE >

さらに読み込む

CONTACT



事業名 福井とつながる対流拡大事業 主宰 福井市
協力

国立大学法人 福井大学 産学官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社

運営 株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ・ピネン

© 2025 未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト